２　地理歴史・公民

学校番号	４１７

２０１９年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新選「世界史Ｂ」　（東京書籍）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・１年次の地理で学習した地誌的な視点と、歴史という時間軸を混乱しないよう学習を進める。
・事実だけを学習するのでなく、歴史的事象がどうして起こったのかを考えていく。
・世界の国々を大きな視点で捉え、日本の歴史と重ね合わせながら学習を進める。

２ 学習の到達目標

・自然環境と人類とのかかわりや、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活の中にみられる世界史を調べる活動を通して、世界史への興味関心を高め、世界史を学ぶ意義に気づかせる。
・古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地域世界の動向に焦点を当てながら学習し、地球世界の形勢という大きな時間的枠組みの中で理解する。
・古代から現代にいたる世界の歴史を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解する。
・世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性や現代世界の特質を、広い視野から考察することにより、歴史的思考力を培う。
・主体的な学習活動を通して、現代の世界が抱える諸課題について探究し、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	○世界の歴史を学ぶ意義に気づき、世界史に対する関心を高め、主体的に学習に取り組めているか。 ○世界が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身につけているか。	○世界の歴史を、自然環境とのかかわりや地理的条件、日本の歴史と関連づけて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 ○世界の歴史を、時間的なつながりや空間的なつながりに着目して考察しているか。 ○歴史的に形成された諸課題について、様々な理解、立場があることをふまえ、公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。	○世界の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができているか。 ○得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身につけているか。	○古代から現代にいたる世界の政治、経済、社会、文化、宗教、生活の各領域における歴史的事象を理解し、基本的な知識を身につけているか。 ○古代から現代にいたる世界の歴史の大きな枠組みと展開を、地理的条件や日本の歴史とも関連づけながら理解しているか。
評価方法	ノート 感想・疑問など	定期考査 レポート	定期考査 レポート	定期考査 ノート
	〔ノート〕 毎回のノートの中に、生徒個々人が記入する場所を設け、その活用状況を見る。 学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とする。 自己評価、振り返りシートを評価の参考とする。	〔定期考査〕 論述問題等を通して「思考・判断・表現」の状況を評価する。 〔レポート〕 「世界史への扉」「時間軸からみる諸地域世界」「空間軸からみる諸地域世界」「資料からよみとく歴史の世界」「終章」における課題探究学習の際のレポートのまとまりで評価する。は、「関心・意欲・態度」、およびの状況を評価する資料とする。	〔レポート〕 「世界史への扉」「時間軸からみる諸地域世界」「空間軸からみる諸地域世界」「資料からよみとく歴史の世界」「終章」における課題探究学習の際のレポートのまとまりで評価する。	〔定期考査〕 出題範囲における「知識・理解」の習得の状況を評価する。 〔ノート〕 内容のまとまり
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	世界史への扉	・自然環境と人類のかかわり ・日本の歴史と世界の歴史のつながり ・日常生活にみる世界史	○ ○ 	 ○ ○	 ○ 	 ○ 	a:自然環境と歴史とのかかわりをさまざまな事例を通して考え、地理と歴史への関心を高めようとしている。 b:設定された主題について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:設定された主題について、事例の考察に必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:ユーラシア各地に形成された諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身に付けている。	ノート レポート 定期考査
	文明と地域世界の形成	・地球と人類のはじまり ・オリエント文明の形成 ・ギリシア世界とオリエント ・ローマ帝国と地中海世界	○ ○ ○ ○	 ○ 	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:人類の誕生の小単元で大きな歴史の時間軸と世界の空間的に関する知識を学習する意欲がある。ユーラシア各地に形成された諸文明の特質と、ユーラシアの交流について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:オリエント文明・ギリシア文明・ローマ帝国などの文化の交流の特質を見いだし、地域世界相互の文化変容などと関連付けながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:オリエント文明・ギリシア文明・ローマ帝国などの諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身に付けている。	ノート 定期考査

2学期	文明と地域世界の形成	・東アジア・内陸アジア世界の形成 ・南アジア世界の形成 ・東南アジア世界の形成	○ ○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a:東アジア、南アジア、東南アジアに形成された諸文明の特質と、ユーラシアの交流について関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b: 東アジア、南アジア、東南アジアに形成された諸文明の文化の交流の特質を見いだし、地域世界相互の文化変容などと関連付けながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:必要な諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:東アジア、南アジア、東南アジアなどの諸文明と交流の特質について理解し、その知識を身に付けている。 。	ノート定期考査 レポート
3学期	諸地域世界の交流と再編	・イスラーム世界の形成と拡大 ・ヨーロッパ世界の形成と変動	○ ○	 ○	○ 	○ ○	a:イスラーム世界の拡大とその後のキリスト教世界との対立、またその交流に対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:、イスラーム世界の拡大とその後のキリスト教世界との対立、またその交流を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:イスラーム世界の拡大とその後のキリスト教世界との対立、またその交流に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 d:イスラーム世界の拡大とその後のキリスト教世界との対立についての基本的な事柄をその後の近世に至るヨーロッパ世界と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。	ノート 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。